

Fontaine

vol. 47

発行日 2015年3月25日
発行/岸和田文化事業協会〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

「皿田能」と「能楽こども教室」

大倉流大鼓方 辻 芳昭



阪南市には、謡曲の「自然居士（じねんこじ）」の生家跡だといわれる旧跡があります。

しかし近年は新興住宅地の増加により、新しい世帯が激増し、そんな旧跡の事を知る方も少なくなってきました。そんな中で、多くの方々に地域の特色の有る文化を知ってもらうためのきっかけづくりを、日本古来の伝統芸能である「能・狂言」を活用して展開したいとの思いから、有志による実行委員会が中心となり、阪南市内の波太神社で薪能が催され、それが今の「皿田能」につながっています。阪南市のサラダホールは、舞台に能舞台が設置できるため、大勢の方に鑑賞していただけます。

その皿田能も、平成27年1月の公演で25回目を数えました。理解するのが難しいと思われるがちな能楽を、地域の方々に身近に感じてもらえるような取り組みとして、毎回事前に能楽入門講座も開催しています。演目や専門用語の解説や、能装束や面などを手にすることができる機会も設けています。実際に仕舞を舞ったり、鼓や太鼓を演奏体験したりしていただきますが、特に若い世代のファミリーには好評です。

その活動の中で、特に将来を担う子どもたちに、伝統文化に関心や理解を持ってもらう機会が必要だと感じています。子どもたちにとって、様々なことに興味を持ち、チャレンジすることはとても大切な事でしょう。また、国際化が進み、グローバルに飛び出す子ども達に

とって、自国の文化を理解し、愛することは、ますます重要になると感じています。

普段触れることのない能楽の世界を、身近に体験できる機会として「皿田能 能楽こども教室」を開設しています。鼓や舞、謡（うたい）の練習を通して、日本の伝統文化である能楽に親しみを持ってもらえることで、子ども達にとって、かけがえのない思い出づくりの機会になると考えています。

教室では、子ども達に日本の伝統文化である能楽に親しみを持ってもらえるよう、能楽師と協力して鼓や、舞、謡を解りやすく体験できるように工夫しています。

教室の発表会は、毎回、『皿田能』公演で本物の能楽を見学したあと、その同じ能舞台の上で行います。だから子ども達は、大勢の観客の前で練習の成果を発表することになるのですが、その上プロの能楽師との共演もあるため、子ども達にとっては緊張感のある、かけがえのない貴重な経験となることでしょう。舞台を終えた後の、子ども達の晴れ晴れとしたさわやかな笑顔が、毎回の活動の充実を物語っています。子ども達に実施後に行うアンケートでも毎回、「またやってみたい」との意見が多数で、目標以上の成果を得ることができていると感じています。

地域に伝統文化が根付いていることを誇りに思ってもらえるような環境づくりを目指して、今後もあせらず努力していきたいと考えています。

鎌上人

泉州にお念仏の礎を
築いた高僧

燈誉上人像

岸和田市春木には浄土宗西福寺がある。このお寺は後奈良天皇（1526～1557）の勅願所で寺領壱千石と言われていた。また、境内は二町歩（六千坪）にも及び、檀家は四十八ヶ村、末寺は四十八ヶ寺にのぼった。この大寺の基礎を築きあげたのが「鎌上人」その人であった。

極楽寺町の極楽寺に残る『燈誉上人絵伝』にはその名の由来が次のように書かれている。

「時は後土御門天皇の御世、文明四年（1472）の事である。ところは伊勢の山田（現在の伊勢市街地）。ちょうど室町時代、応仁元年（1467）から十年間にも及ぶ応仁の乱の最中、ひとりの母親が産み月になって、俄かに亡くなったのである。周りの人たちは気の毒に思い、せめてお腹の子どもだけでも生まれさせてあげることができれば、母亡き後の形見になると思った。そこで手近にあった鎌をもってその腹を断ち割ったのである。すると端正な赤ん坊が産声をあげて生まれてきた。母の死とともに出生したこの赤ん坊を人々は哀れに思い、涙のうちに産着でくるんで抱き上げ、育てた。やがて成長したその子は、命に代えても自分を産んで下さった亡き母の菩提を弔いたいという志が日に日に強くなっていったのである。つい

に機縁熟して、安誉欣然上人あんよごんねんの元で剃髪出家の身となった。よって、正式な僧名は「重蓮社燈誉良然上人じゅうれんじや」であるが、この出生にまつわる故事により、人呼んで 鎌上人 と言われたのである」と。

そして、各地で修行を重ね、多くの寺院を建立したと伝えられている。泉州に於ける浄土宗の発展は偏にこの「鎌上人」によるものであろう。

また『浄土宗傳燈總系譜』や『寶鑑縁起』ほうかんえんぎ（岸和田市春木・西福寺蔵）には「知恩院第二十七世 浩蓮社徳誉總欣光然上人が後に燈誉と改めた」とある。つまり、浩蓮社徳誉總欣光然上人と重蓮社燈誉良然上人（鎌上人）とは同一人物であるということである。

しかし、『燈誉上人絵伝』（岸和田市・極楽寺蔵）によると「天文十三年（1544）、鎌上人は七十三歳で堺の旭蓮社（大阿弥陀経寺）という大寺におられた。その年は法然上人三百三十三回忌であったが、時の知恩院住職である第二十七世徳誉光然上人は健康がすぐれず、大法要の導師を勤めることができなかった。そこで、白羽の矢が立ったのが燈誉上人である。青蓮院しょうれんいんのみやにほん宮二品親王から紫衣りんじの綸旨を賜り、知恩院住職として大法要を勤めたので知恩院第二十七世となった」とある。どちらが真実なのか今となっては知る由もないが、偉大な僧侶であったことだけは確かなようである。

その他、和歌にも秀でており、二千五百五十一首の長歌・短歌・旋頭歌せどうかを物している。その内の三百首は弘治元年（1555）正親町天皇の勅撰を賜り、これを『朽木集』三卷（西福寺蔵）にまとめている。中興・開山された寺院は堺の旭蓮社（大阿弥陀経寺）、春木の西福寺、大沢の転法輪寺、泉佐野の上善寺、極楽寺町の極楽寺等である。今、泉州に万人救済の御教え一お念仏があるのはまさに「鎌上人」の布教によるところが大きい。有難いことである。

日本の民具

第2回

堺市石津地区の風車

吉田太郎え



岸和田の生んだ染色画家・吉田太郎氏の日本の民具シリーズの第2回として、「堺市石津地区の風車」をご紹介します。

「ああ、懐かしい」と思われる方も多いことと思います。

堺の風車は、1935年ころから1950年代始めまで堺市石津地区を中心とした海岸の一角で最も多く普及していました。最盛期にはこの地区に200基近く林立していました。

南海電車の車窓から見える異国情緒豊かなその風景はとても親しまれたものです。

大正時代、安い輸入綿に押されて綿栽培はミツバや小松菜などの軟弱野菜の栽培に切り替わっていきました。野菜栽培には多量の水が必要で、重労働を強いられる状況になり、地元の人の考案した灌漑用の揚水風車が広く利用され普及しました。

1960年代には新しいポンプが導入され、また石津や浜寺の沖が埋め立てられ浜風が弱まり風車は用をなさなくなり急激に減少し1980年代にはほぼ見られなくなりました。

(本郷 元子)

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

番外編

「懐かしの映画館・四方山話」 岸和田版

①「岸和田館」(堺町)

中央小学校校庭の向かい側の旧国道26号線沿いにあった。(現 駐車場)「大映」と「日活」の封切館(新作映画を初めて上映する館)。

盆・正月興行など満員の際は、上映終了後の観客の退出一時となり大変混雑するため、この映画館では、旧国道26号線の歩道に面した5か所ほどの非常口を開放し、観客退出時の緩和を図っていた。また満員のときは2階の映写室へのフィルム缶の搬入・出が困難なため、歩道から2階映写室の窓に板を立て掛け、フィルム缶をロープ付きの袋に入れ、その板に沿ってフィルム袋の搬入・出をしていた。

②「電気館」(北町)

旧紀州道の欄干橋から古城川(現 遊歩道)沿を西へ、初めての角を北へ60~70mの浜側にあった。(現 駐車場)「松竹」と「東宝」の封切館。2階の客席は急斜面で最上階は3階席となっていた。映写室はその客性のまだ上部にあった。

③「山村劇場」(北町)

電気館前を古城川の遊歩道に戻り、元の角を西へ50mの大阪側にあった。(現 住宅地)「東宝」と「新東宝」の封切館。映写室は一階にあった。

④「セントラル劇場」(宮本町)

洋画専門館で、旧南海岸和田駅改札口の向かい筋の利便性の良い場所にあった。(現パチンコ店)

⑤「東宝劇場」(本町)

旧26号線本町交差点を西へ100mの大阪側の角にあった。(現 住宅地)主流は洋画で邦画も上映していた。興行的に弱い作品が多く、いつ行っても空いているのんびりと鑑賞できた。

⑥「吉野倶楽部」(下野町5丁目)

下野町5丁目の旧紀州街道沿いの山側にあった。(現 駐車場)無声映画も上映していた。また映画の他に浪曲公演などもしていた。

⑦「春陽館」(春木泉町)

旧紀州道沿い泉町会館の西側で、現春木南地車庫付近にあった。

⑧「和泉座」(下野町1丁目)

映画館ではなく芝居小屋で、芝居や浪曲などの公演をしていた。

旧紀州道沿いの天理教分教会の北角を西へ入った大阪側にあった。(現 駐車場)

さ〜ん!」と連呼の呼び出しがかかることもある。今ではとても考えられない悠長なことだった。

盆・正月興行などはオールスター出演のヒット作が多く、それぞれの映画館の宣伝活動も活気があって面白かった。また盆・正月は勿論のこと、ヒット作品や人気スターの出演映画は常に満員で、入り口には「満員御礼! 只今立ち見」の札が立てられていた。各映画館とも50〜100台位の自転車預かり場があり満員の際は満車だった。

映画は、作る人(スタッフ・キャスト)と、映す人(映画館)と、観る人(観客・映画ファン)から成る。どんなに素晴らしい作品でも、それを映す場所がなければ観ることができない。人々は映画を観て、泣き、笑い、感動し、感銘を受ける。そしてその忘れられない映画のことをいつまでも語り合う。その元となるところが映画館である。

時代の流れとともに当時の映画館は岸和田の街からからも全て姿を消した。しかし、映画館が身近にあったお陰で、多くの巨匠監督の名作や名場面。更には、銀幕に花を添えた名優たちに出会うことができた。過ぎ去った少年・青年期が映画全盛期であったことを懐かしくもあり嬉しく誇りに思う。

人々に親しまれ一世を風靡したこれらの建物は全て姿を消してしまった。その後、「岸和田大映」(北町)、「岸和田日活」(大北町)が建てられたがいずれも今はない。移行行く時代の流れとはいえ寂しい限りである。



※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

家庭にテレビが普及するまでの娯楽のトップは何と言っても映画である。昭和20～30年代は映画が最も輝いていた映画全盛期で、全国に7,000軒以上もの映画館があったと言う。岸和田の街にもバラエティーに富んだ映画館が、私の家から歩いて行ける範囲内に数館あった。今は姿を消した半世紀前の岸和田の映画館の幾つかと、映画館の様々な様子を懐古した。

理事 吉垣内 利光

映画館の様々な様子

映画1本の上映サイクルは、盆・正月興行を除き、封切後1週間での入れ替え制となっていた。2本立て・3本立ては当たり前で、白黒作品も数多く上映されていた。また本編上映前には必ず「ニュース映画」を上映していた。テレビの無い時代の貴重な動画の情報だが、内容は3～4週間ほどの出来事だった。

映画館の前には、上映中の映画と次回上映予告の看板絵やスチール写真（上映作品の一場面の油絵や焼き付け写真）を掲げていた。映画館では専属の看板師がいて、映画の中身が想像できる素晴らしい大型の絵看板を一日一枚の割で描きあげていたと聞く。看板絵は映画館前のほか、市内の主要駅前付近や街角のあちこちに掲げられていた。

入場料金は、昭和25年頃は小人40円。昭和30年頃は小人50円、学割80円、大人100円。昭和35年頃は小人100円、学割150円、大人200円だった様に思う。面白いのは、平日午前の料金に早朝割引と言うのがあった。

映画館に一步入ると、壁にはスター俳優たちの顔額が何枚も掛っていた。客は入れ替え制ではなく、上映中に入館し、その映画が終わるともう一度その映画を始めから観て、観たところまでくれば帰ると言う鑑賞の仕方だった。また一度入れれば何度観ても同じ料金だった。

上映中の館内は真つ暗で、空いているときは、手さぐり足さぐりで空席を求めて進む。やつとのこと座席に着きスクリーンを観てもストーリーは解らない。また子供の頃は背が低いので座席の高い人の後ろに座ったときは大変だった。満員のときは、立ち見客の肩や頭越しにスクリーンを覗き観るが、勿論ストーリーは解らない。上映が終わると空き座席の奪い合戦が始まる。運悪く座れなければもう1本立ち見となる。時には3本立てを立ち見のまま観たこともある。座席の多くは木製の椅子で、20分も座るとお尻が痛くなってくる。床がコンクリートで冬は暖房設備がないのでよく冷えた。

各映画館とも2階の通路より前の部分は畳敷きの棧敷席で、履物はその最前部の溝の中に入れて置く様になっていた。また棧敷席には薄汚れた座布団が数枚置いてあって、壁にもたれて観ている人や行儀悪く寝ころんで観ている人もいた。

当時の映画館は近隣市の同系列の映画館とチェーンを組んでいて、上映中のフィルムを2・3館で時差を設定し回していた。脚力に自信のある若者が自転車の荷台にフィルム缶を1・2缶くくりつけ、チェーン館を一日に何度も掛け持ちして運んでいた。

この掛け持ちが何かの都合で遅れると、スクリーンが急に真つ白になり、照明も点灯されて館内が明るくなる。そして「フィルム未着のためしばらくお待ちください！」とお茶子さん（劇場・芝居小屋などの女子衆の肉声コメントが入る。でも観客は落ち着いたもので文句も言わず、トイレなどに行き時を過ごす。また時には上映中に突然、大きな声で「〇〇町の△△

岸和田 あ・ら・か・る・と

岸和田市観光振興協会 事務局長 原 宗 久

「みかんの花が 咲いている 思い出の道 丘の道 はるかに見える 青い海 お船が遠く 霞んでる」という歌は、ご存知の方が多いと思いますが、実際のみかんの花をご存知でしょうか？

私の家から歩いて二十分位の神於山の中腹まで登ったところで、この光景を見ることが出来ます。丘陵地一帯にみかん畑が広がり、蜻蛉池、大池、隣徳池、遠くに岸和田の市街地と大阪湾が望めます。

5月初旬になると、可憐でかわいらしい白い花を一齐に咲かせます。爽やかで甘い香りがあたり一面を包んでいて、この時期約2～3週間は、この光景が味わえます。

花がいっぱい咲くと綺麗ですが、みかんは表年（豊作）と裏年（不作）を繰り返すため、農家の方々は、大量に花が咲くと、摘蕾や摘果作業で毎年平均に実るように栽培します。

そして、秋になるとたわわにみかんが実り、一面が黄金色に輝きます。

このみかん畑も外環状線や丘陵地の開発等で減少しましたが、北阪町周辺では、観光みかん園を営業しており、まだまだ多くのみかん畑を見ることが出来ます。

また、近くには「道の駅」、農産物直売所「愛彩ランド」、蜻蛉池公園もあり、ゆっくと過ごせる場所として、人気を博しております。

みなさんも是非、五月晴れのひと時、みかんの花咲く丘を訪れてみてはどうですか。



みかんの花

神於山のみかん畑



Ichigo-Ichien

サンのひとりごと

奥野 芳子



僕は犬（ミニチュア ダックス）の女の子です。名前はサン。アニメのもののけ姫から来たそうです。

一週間の予定で今のご主人様（芳ちゃん）のもとへ預けられ、もう、はや8年。捨てられたのです。

芳ちゃんは、目の見えない年老いたおばあちゃんのお世話で僕の事を構ってるひまがないのです。でも仕方なく置いてくれた、嬉しかった。

おばあちゃんも手探りで僕をなでてくれた。そのおばあちゃんもなくなり、芳ちゃんの子ども達も結婚、僕と二人になった。

芳ちゃんは絵を描く事が好きで教室も開いている。教室のある時は僕も連れて行ってくれる。

散歩中の男の子のごん太が時々ハグしてくれる。少してれください。

3年前ぐらいから僕は足が痛くなってきたのです。痛いよう！歩きたくないよう！でも芳ちゃんはわからないから、そんな僕を無理に引っぱって外へ散歩に連れ出した。辛かった。

美容院に行った時、そこのお姉ちゃんが僕の異常に気付いてくれた。

なんと！リュマウチ。お医者さんから「この病気は一生なおりません」と。まだ小さい僕には過酷すぎます。

芳ちゃんは泣いた。二人は開き直り、僕は3日に1回の痛み止めを飲み続けて動かなければ少しは楽になった。

今は足がべろべろ。まるでオットセイ。歩けなくなりました。

芳ちゃんは、バイクの前に僕をのせるかごをつけ、毎朝田んぼにつれていってくれる。夏は芳ちゃんと取れたてのミニトマトをばくり。風を切って朝陽を浴びて走る田舎道は爽快です。

蚊に刺されないよう、いつもかごの下に蚊取り線香をたいてくれる。少し煙いが、がまん、ガマン。

絵の教室のみんなはとってもやさしい。3時のお茶の時、僕もおやつをもらう。

時々芳ちゃんは僕の事を忘れる時がある。僕は必死で訴える。

みんなは色んな事をおしゃべりしながら、楽しそうに描いている。それを聞きながらうとうと。大好きな時間だ。

遠いところから田んぼを作りに来ているおっちゃんが僕をなめくりまわし、大事に大事にしてくれる。このおっちゃんが好きだ！

手のかかる僕ですが、これからも芳ちゃん、よろしくお願いします。

サン

Event Report

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

アンケートからの抜粋

新春 邦楽の調べ ～乙女文楽と長唄～

平成27年1月31日(土)
午後2時～

大正時代末期、女性が一人一体の人形を遣うことを目的に考案された「乙女文楽」と三味線とお囃子による長唄の演奏を自泉会館ホールで実施し、79人の入場者がありました。



皆さんの声

- ◆三味線と鼓の掛け合い、お人形の動き、一人で動かす人形の仕草に感じ入りました。初めての乙女文楽でしたが、本当に良かったです。
- ◆長唄、人形、小鼓どれも素晴らしく良かったです。お話も分かり易く魅力的で良かったです。
- ◆三味線の説明があり、とても良く分かりました。小鼓もいくつもの音色を聴かせてもらい楽しみました。乙女文楽の苦勞されたことなどを思いながら、楽しく拝見しました。
- ◆人形がとても可愛くて良いものだなあと思いました。長唄の歌詞の内容が分かるようプログラムに印刷してもらえたら、なお良かったと思います。
- ◆乙女文楽の鑑賞は2回目です。1回目は吹田のメイシアターでした。遠かったですよ。今回は間近で見られて良かったです。地元で良い文化に触れられるのは、とっても素晴らしいと思いました。

第7回フレッシュプレミアムコンサート 最優秀賞受賞記念コンサート

伊石昂平 ～未来へ輝くチェロの音色と共に～

平成27年2月15日(日)午後2時～

昨年3月に実施したフレッシュプレミアムコンサートにおいて、伊石昂平氏が最優秀賞を受賞したことを記念して、彼のソロコンサートを自泉会館ホールで実施し、129人の入場者がありました。

皆さんの声

- ◆ピアノとチェロの息がとても良く合っていて、とても良いコンサートでした。解説も面白かったです。
- ◆チェロの落ち着いた音色で、ゆったりとした心になりました。ピアノとの共演も良かったです。おしゃべりも面白く。
- ◆後ろの方だと奏者の手元が見えなかったので少し残念でした。台でもあって、一段上だとより良かったです。
- ◆ベートーベンが特に素晴らしかった。チェロとピアノが見事に調和していて、まるで一つの楽器のようだった。
- ◆チェロの奥深い音とピアノの力強く綺麗な音に魅了されました。
- ◆肌寒い冬の一時を、心安らぐチェロの音色にゆったりと過ごさせて頂き、感謝します。
- ◆若い人が音楽を楽しんでいるようで応援したくなります。頑張ってください。



第4回自泉ジュニアコンサート

平成27年3月8日(日)午後2時～

2月7日に実施したオーディション(46組申込)に合格した小学1年生から高校1年生までの16人によるコンサートを自泉会館ホールで実施し、125人の入場者がありました。また、出場者の中から、優秀賞3人に対して賞状を授与するとともに、フレッシュプレミアムコンサートに出演していただくことになりました。

皆さんの声

- ◆小さい方たちが、頑張って精進されている姿を見るのはとても良いものです。また、子どもさん方にとって、発表の場が有り、講評を受ける場があるのもいいものです。
- ◆皆さん一生懸命頑張っていて、声楽、ピアノ、ヴァイオリンと色々な演奏が聴けたので楽しかったです。
- ◆ホールの雰囲気、演奏会にとても合っていると思います。スタッフの方の対応もとても親切で、気持ち良く出演することができました。
- ◆皆さんの演奏、心を癒してくれますね。選ばれた人たちなのでとてもお上手。後方で聴いていたので、素敵なお洋服、お顔が良く見えなかったのが残念でした。
- ◆ジュニアコンサートとは思えないほど、レベルの高い演奏でした。



影絵劇「弁財天の松の物語」～影絵と音楽による岸和田の昔話～

平成27年3月15日(日)午後2時～

マドカホール開館30周年記念事業の一環として、また、3回目となる浪切ホール、マドカホール、自泉会館の3館合同事業をマドカホールで実施し、約350人の入場者がありました。

今回は、岸和田の昔話から「弁財天の松」を題材に選び、影絵劇に挑戦をしました。出演者を公募、17名の参加者を得て、4ヶ月間毎週水曜日の夜に練習を行いました。音楽は、プロの音登夢によるヴァイオリン、チェロ、ピアノと平岡洋子氏のフルートの生演奏、岸和田市少年少女合唱団の歌声で、劇を盛り上げました。地元の題材を、地元の人たちの力で実演することができ、また、岸和田の昔話を、アマチュアとプロの共演による影絵と生演奏で分かり易く知ることができました。

当日のプログラムは3部構成とし、第1部音登夢とフルートの演奏、第2部影絵劇、第3部に影絵のワークショップを行い、入場者に舞台上上がってもらい、人形に触れ、影絵の仕組みを体験してもらいました。



岸和田文化事業協会の事業 Information

平成27年度 定時総会開催

平成27年度定時総会を下記の要領で開催します。

日 時：平成27年5月30日(土) 場 所：岸和田市立自泉会館
午後2時より

第1部 イベント 「スミスアメリカン オルガンコンサート

内容

入場無料

～自泉会館にリードオルガンの音を響かせよう～ オルガン奏者 大森 幹子
今回使用するオルガンは、1880年ごろ製作されたスミス・アメリカン社製のリードオルガンです。現在、自泉会館のほか日本でも1台確認されているだけです。また、NHK朝ドラ「カーネーション」にも出演しました。

第2部 総 会 ①平成26年度事業・決算報告 ②平成27年度事業計画・予算案審議 ③役員改選

第43回自泉フレッシュコンサート ～春の風にさそわれて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日 時：平成27年4月19日(日)午後2時開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：加藤真由子(ソプラノ)

中村 茜(メゾソプラノ)

森田 美穂(クラリネット)

入場料：一般前売1,200円(当日200円増)

会員前売1,000円(当日200円増)

第44回自泉フレッシュコンサート ～緑の風にさそわれて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日 時：平成27年6月12日(金)午後6時半開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：出場者未定

入場料：一般前売1,200円(当日200円増)

会員前売1,000円(当日200円増)

文化情報

「第66回岸和田市市展」への出品を募集いたします。

自作未発表のものに限ります。

資 格 平成12年4月1日以前に生まれた人

出 品 料 500円

搬入場所 マドカホール 展示場(荒木町1丁目)

会 期	部 門	体 裁	出品数	搬入日時
第1期	洋画	額装(ガラス不可)	1人1点	5月12日(火)・13日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/17日～24日
第2期	染織	額装・屏風・着物・タペストリー・オブジェ	1人2点以内	5月26日(火)・27日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/31日～6/7日
	陶芸	皿立て等、装飾的附属品不可	1人1点	
第3期	書	額装・軸装・裱装・衝立・屏風・帖・巻物・刻字	1人1点	6月9日(火)・10日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/14日～21日
	日本画	額装(ガラス・アクリル不可)	1人1点	
第4期	写真	パネル張り・額装(ガラス・アクリル不可)	1人1点	6月23日(火)・24日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/28日～7/5日
	俳画	額装・軸装	1人2点以内	

※作品の額縁などにはつり下げ用のひもを必ず付けてください。

詳しくはマドカホールにて配布中の募集要領をご覧ください。

問合せ先：マドカホール(担当：川崎・島岡) 電話：443-3800 月曜日休館

Bass Bar コントラバスへの誘い

日 時：平成27年6月26日(金)午後7時開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：Bass Bar

入場料：前売1,000円(当日500円増)

チケット発売日：会員5月8日(金)

一般5月15日(金)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

平成27年度(平成27年4月～平成28年3月)

会員募集

年会費 個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円
(入会費不要) 家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。

郵便振込の場合は
口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle Fontaine vol.47

発行：岸和田文化事業協会

発行日：2015年3月25日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

小島栄子・歯黒猛夫

藤田保平・本郷元子

編集後記...

小さな庭に、本体は貝殻虫に侵されて枯死寸前の体ではあるが、脇に派生した「ひこばえ」の痛々しい程の細い枝に、眼に入れても痛くないような枝垂梅の蕾が二つ三つ、可憐にも頑張っている。

西行法師の歌に「願わくば花の下にて春死なむ その如月の望月のころ」と。花とは勿論「桜」のことである。「如月」は二月の古い呼び方。とすると二月に桜とはどうにも合点の行かぬ話。平成二十七年の「宝暦」によると、旧暦の二月十五日は、新暦の四月三日に当たる。とすると西行法師の願望も正鵠か。とにもかかわらず、三月四月は年度の変わり目、慌ただしい時季。ひねもすのたりのたりとはしておれぬ。(藤田保平)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索